

2018年3月期決算説明会 質疑応答

実施日：2018年4月26日(木)

当社説明者：代表取締役社長(兼)COO 上西 京一郎、執行役員 霜田 朝之

IRグループマネージャー 浅井 一(司会)

以下は、説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

Q1) スマートフォン向けアプリに代表されるシステム関連投資は、将来的に人件費の減少につながるか。

A1) システム関連投資は混雑感の緩和やゲストの利便性向上を主目的にしているが、副次的な効果として労働生産性の向上にも寄与すると考えている。今後、パークへの大規模投資を控えるなかで人件費を削減していくことは難しいが、ITの活用等をはじめ、更なる労働生産性の向上に注力したい。

Q2) 大規模投資を控え、遠方からの採用にも力を入れているようだが、現時点で人が足りていないのか。

A2) 現時点では当社が必要とするキャスト数は確保できているが、将来的にはより多くのキャストが必要になってくるものと考えている。急に人財を集めることは難しいので、足元では計画的に採用し、定着してもらうための施策に力を入れている。

Q3) スマートフォン向けアプリのパーク内商品の検索・購入機能は売上高の増加につながるか。

A3) アプリ機能の認知に多少時間がかかるかもしれないが、中長期的には売上高の増加を見込んでいる。パーク内商品の検索・購入機能により、ゲストは来園中の空いた時間に商品を購入することが可能となる。閉園間際の店舗が混雑していると、お土産を購入せずに帰宅してしまうゲストもいらっしやっただが、今後はそのような機会損失も軽減できると考えている。

Q4) 海外ゲスト数が増加しているが、海外のリピーターは増えているのか。

A4) 海外ゲストはインバウンドの増加に伴い増加している。ガイドブックの多言語対応など海外ゲストの受入れ体制を強化することで、海外ゲストに満足して帰って頂き、リピーターになって頂くことを目指している。また、口コミ効果により、新たな海外ゲストの獲得にもつなげていきたい。

Q5) パークの拡張についての考え方を共有して欲しい。

A5) 2021年度以降の投資計画として、既存のパークのいずれかを拡張することを検討している。現時点では具体的な内容について発表できることはないが、なるべく早く発表できるように検討を進めている。

Q6) 余剰キャッシュからは、今年度も自社株買いを実施できると思うが、株主還元を強化しない理由は。

A6) 財務方針に関しては、営業キャッシュ・フローを成長投資に充当し、企業価値の向上を目指すことに変わりはない。現在、2021年度以降の投資計画を検討しており、具体的な投資額が決まるまではお待ちいただきたい。

Q7) 外部調査では顧客満足度が下がっているようだが、会社としてどのように捉えているか。

A7) 社内における様々な調査結果を見ても、過去と比較して顧客満足度が下がっていることはない。しかしながら、当社が理想とする顧客満足度にはまだ到達していないと考えており、今後ともハード・ソフト両面の強化を図っていく。外部調査の結果についても、真摯に受け止め、要因の分析と改善に努めていきたい。

以上